

寺田寅彦銅像の設置運動－物理学者寺田寅彦と湯川秀樹

大久保 茂男

本原稿は、友の会会員の大久保茂男様が「素粒子論研究電子版2019年5月号」に「湯川秀樹先生のはじめての胸像は何故高知に建てられたか」という論文を発表されたものから、著者の許諾を得て標記の所を抽出して掲載させていただきました。全文は、文末のアドレスを参考にされてお読みいただけたらと思います。必要な注釈は、文末に記しております。（編集部）

私が恩師の湯川秀樹胸像に直面した同じ年、2018年7月24日、高知市の旧追手前小学校跡地に新設開館の高知縣市立図書館（オーテピア）に高知県出身の物理学者・寺田寅彦（1878（明治11）－1935（昭和10）年）の銅像（図20）が設置され除幕式が行われた。銅像は彫刻家大野良一の制作で高知城をのぞむ追手筋に森総之助や寺田寅彦が卒業した高知追手前高校に面して設置されている。筆者も一員の「寺田寅彦記念館友の会」（山本健吉会長）を中心とした有志「寺田寅彦の銅像を建てる会」による2014年からの1000万円募金活動により建立された。銅像には寺田寅彦の有名な言葉「天災は忘れられたる頃来る」（台座右側面）と自筆短歌（台座右側面）とともに正面には「ねえ君 ふしぎだと思いませんか 寺田寅彦」と刻まれている。高知には偉大な物理学者の銅像がふたつあることになった。寺田寅彦像も湯川秀樹像とおなじく住民の自発的運動・募金で設置されたところに土佐の進取の民権自由思想が脈々と流れているように思われる。

寺田寅彦は湯川の間子論の論文[3]が出版された1935年に死去†††（12月31日）しているが、理化学研究所で寺田寅彦の指導をうけた理論物理学者渡辺慧（1910-1993年）によると湯川秀樹は理研時代の寺田寅彦と会っているようだ。湯川の記憶は鮮明でないようで[69]「私はどういうものか、寺田先生にはお目にかかった記憶はないね。一ぺんぐらいお会いしているんじゃないかと思うんだけど、記憶がありませんね。私がちょうど大阪大学におった時代で、そのころは東京の理研の仁科研究室にもよく出入りしておってね。」と渡辺との対談で語っている。東京帝国大学で物理の看板教授であった寺田寅彦は会議嫌い††††で、東京帝大に辞表を出し理化学研究所に移り（東京帝大は地震研究所所員で兼任）、1925年から1935年晩年まで寺田研究室



図 20
2018年7月24日高知市城下に設立された寺田寅彦像。（2018年12月18日筆者撮影）



図 21
高知県夜須小学校の「湯川秀樹先生像」の銘板と正面像。（2018年11月4日筆者撮影）

を主宰した。仁科芳雄(1890(明治23)-1951(昭和26)年)が理化学研究所に研究室を開くのは、ヨーロッパ留学(1921-1928年)から帰国してしばらくしてからの1931年で、寺田研究室よりだいぶ遅れる。仁科は1931年よく知られている京都大学での集中講義をおこない、湯川秀樹、朝永振一郎、坂田昌一らに最新のヨーロッパの原子核物理学を紹介している。湯川(寺田寅彦よりも28歳年下)は師の仁科芳雄や坂田昌一などのいる理化学研究所にはよく出かけており、寺田寅彦にあってはいる可能性は大きい。

湯川秀樹が眺めたであろう桂浜の銅像の坂本龍馬は寺田寅彦と関係しているかもしれない。寺田寅彦の父・寺田利正は16歳のとき坂本龍馬[74]も関係するといわれる井口村刃傷事件^{§§§}(文久元年(1861年)3月4日)で13歳の実弟・宇賀喜久馬の切腹を介錯したとされ[75]、寺田寅彦の遠戚の作家安岡章太郎(1920-2013年)が「流離譚」[75]で詳述している。父利正はトラウマになり、寺田寅彦も悲惨過ぎて直接的にかけず間接的に記述している[76]。

寺田寅彦はドイツ・ベルリンに留学しプランク(M. Planck, 1858-1947年)の講義を聞き、英国ではラザフォードにマンチェスターで会っている[77]。寺田寅彦はラザフォードに会ってラジウムを見せてもらっている。ラザフォードが39歳で原子核を発見した論文を投稿した1911年である。ラザフォードの原子核発見の論文[17]の投稿は4月と論文中に記載されている(日は載っていない)ので、面会した1911年4月28日(金曜朝)は月末であり論文はすでに完成していたと考えられる。ラザフォードは論文の概要の内容を同年2月にManchester Literary and Philosophical Societyで発表しているの、寺田寅彦に会ったときには原子核の発見を確信している。(ラジウムの話だけでなく、原子の構造、原子核の発見について話が及んだと推察されるが、寺田の日記には記述がない。[77])ラザフォードの原子核の発見が湯川秀樹の核力の研究、中間子論の発見[3]へと発展する。

寺田寅彦はヨーロッパに留学(1909(明治42)-1911(明治44)年)し、近代原子物理の最先端に触れ、1913(大正2)年「ラウエ斑点」でノーベル賞級といわれる研究を行いながら、(ラウエ(Max von Laue, 1879-1960年)は1914年ノーベル物理学賞、寺田は1917年帝国学士院恩賜賞受賞)ヨーロッパの要素還元主義的研究の後塵を追うことを嫌い独自の複雑系の物理を追究した。湯川(図21)と寺田(図20)、両者は一見きわめて対照的に見えるが、平沢興が「湯川君なんかは、すぐわかったような気持ちになる粗末な頭ではなく、わかるまで徹底的に考えぬく、限りない深さをもった頭ですね」という湯川と「ねえ君 ふしぎだと思いませんか」と複雑系の物理を徹底的に追究した(1908年の寺田の博士論文は「尺八の音響学的研究」)寺田とは根底において共通しているように思われる。寺田寅彦の教え子で物理学者・旧制高知高校教授の篠崎長之****は湯川が予言した新粒子にたいし、こんにち定着している「中間子」という名前を1939年に提唱していて[78]、不思議なつながり、因縁を感じさせる。寺田寅彦の家(現在の寺田寅彦記念館)は筆者が少年時代から過ごした小高坂で、

坂本龍馬の家も近くであり、兩人とも歴史上の人物であると同時に町内の先人という感じがする。大学勤務時代は高知城近くの寺田寅彦の家の前を歩いて通り「天災は忘れられたる頃来る」の碑を見ながら特別な親しみを感じたものである。湯川秀樹もその師森総之助も寺田寅彦も共通して晩年まで終生学問を愛し、多くの文筆・著書を残したが、歴史のなかでつながっているようで何か不思議な縁を感じさせられる。

††† 寺田寅彦の墓は高知市東久万王子谷の寺田利正家墓地にある [70][71]。

‡‡‡ 『自分は何々の長と名のつくものには一生ならなかつもりだ』 [72]と宣言して、大学の管理運営や政治と一線を画した気骨のある人であった [73]。

§§§ この事件を契機に 5 か月後 8 月に武市瑞山(武市半平太) (1829(文政 12)-1865 年(慶応元年))らによる土佐勤皇党結成で、討幕・明治維新へつながる。土佐勤皇党盟為の武市瑞山の銅像(原寛山作)は「武市半平太先生銅像建設期成会」により 1979 年高知県須崎市浦ノ内横浜半島に建てられている。

**** 1944 年 4 月から清水高等商船学校(東京海洋大学の前身)へ転出。湯川が大阪大学で自由な気風の影響を受けた核物理学者菊池正士 [79]は篠崎長之とともに寺田寅彦の実験指導をうけていて、寺田に提出した「学生実験レポート」の実物が見つかっている(高知県立歴史民俗資料館蔵) [71]。寺田寅彦が篠崎長之にあてた 1935 年 9 月 25 日付けの海鳴りに関する手紙が寺田の絶筆だと考えられている [71]。

参考文献

- [3] H. Yukawa, 「On the Interaction of Elementary Particles」 Proc. Phys.-Math. Soc. Jpn. 17, 48 (1935).
[69] 湯川秀樹、『湯川秀樹著作集別巻対談』 p. 301 「まとめるということー寺田研とたどりの研究」(岩波書店、1990).
[70] 高知県教育委員会、『生誕百年記念増補改訂 寺田寅彦郷土随筆集』 p. 280. (1978 年 11 月).
[71] 上田壽、『寺田寅彦断章』 「寺田家の墓地のことなど」 p. 201 (高知新聞社、1994).
[72] 宇田道隆、『寺田寅彦先生の面影』 寅彦研究 15、 p. 7 - 9 (岩波書店、1937).
[73] 酒井邦嘉、『科学者という仕事ー独創性はどのように生まれるか』 p. 153 (中公新書、2006).
[74] 坂崎紫瀾、『汗血千里の駒 坂本竜馬君之伝』 (岩波書店、2010).
[75] 安岡章太郎、『流離譚』 (上) p. 79 (新潮社、1981).
[76] 安岡章太郎、『流離譚』 (上) p. 85-87 (新潮社、1981).
[77] 寺田寅彦、『寺田寅彦全集』 第 19 卷 日記 2 (岩波書店、1998).
[78] 篠崎長之、「Heavy electron に對する譯語の一提案」 科学 9 (3) p. 117 (1939 年 3 月号) (岩波書店、1939).

論文のアドレス

素粒子論研究電子版 5 月号 「湯川秀樹先生のはじめての胸像は何故高知に建てられたか」

http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/sokendenshi/vol28/sokendenshi_2019_28_4.html

コーネル大学の科学史の preprint-server ArXiv 番号 arXiv:1905.07707

<http://arxiv.org/abs/1905.07707>

日本の研究者情報システム Researchmap の大久保茂男

<https://researchmap.jp/nuclear-rainbow>